

現代中文図書整理について

清 水 守 男

目 次

- I はじめに
- II 中国の文字改革と簡体字について
- III 現代中文図書の定義とその読み方，表記の仕方について
- IV 本学図書館における現代中文図書整理について
- V おわりに
- VI 参考文献

I は じ め に

本学には、文学部に国文学科，大学院の国文学専攻に修士課程，博士課程が設置され，教養部の第2外国語には中国語が，商学部には「外国経済論(中国)」という科目が開講されている。その為，中文図書は比較的多く漢籍古典，現代中文図書，全部含めると20,972冊^(注)となる。その内訳は出版年の民国元年(1912年)以前の図書が16,293冊で，以後のものが3,529冊である。この他，新刊の未整理図書と再整理図書(どちらも民国以後の図書)が1,150冊ある。つまり単純計算だが，本学図書館所蔵の民国以前に出版された図書数は16,293冊であり，民国以後の図書数は4,679冊ということになる。

本学図書館には独自の中文図書整理規定がなく、『日本目録規則』，『日本十進分類法』，『日本著者記号表』に従ってきた訳だが，中国語の学力不足から整理上，問題点があっても目をつむった状態で今日まで来てしまった。しかしながら将来予測される中文図書の使用文字，図書利用の動向，及

び整理事務上の効率などの諸点から本学図書館もこの問題について検討する時期に至った。それで、少しでも早い時期に取り組んでおこうと思い今回、私の原案を発表した次第である。問題点は大きく分けると5つある。

1. 中国の文字改革について。
2. 現代中文図書の定義の仕方について。
3. その読み方、表記の仕方について。
4. その目録上の問題点について。
5. その分類上の問題点について。

〔注〕

この数字は1982年8月6日現在のもので、整理済のカードの登録番号と未整理図書、再整理図書の冊数の合計である。従って正確な数字ではない。これには複本類は含まれていない。

Ⅱ 中国の文字改革と簡体字について

1 中国の文字改革について

中国は漢民族の他に50余の少数民族を持つ多民族国家である。漢民族の話す漢語、つまり中国語と多くの少数民族の言語がそこで使われている。

中国語の文字（漢字）は複雑な為長い間、中国の大多数の国民を文盲の状態においてきた。1949年の中華人民共和国成立当時、中国の総人口の80%は文盲だったとされている。この為、中国は共通語の普及と共に漢字の簡略化に取り組み始めた。1951年に故毛沢東主席が、「わが国の文字は改革しなければならず、世界の文字に共通の表音の方向に向かわなければならない。しかし、漢字の表音化には多くの準備作業が必要であり、表音化を実現するまでは、漢字を簡略化して目前の応用に役立つようにしなければならない。」¹⁾という内容のものを打ち出した。この政策は着々と進められ、1982年の7月に行なわれた国勢調査では、中国の12才以上の文盲、半文盲人口は2億3,582万人となった。前回の1964年の調査と比較するならば文盲、半文盲人口の総人口に占める割合は38.1%から23.5%に低下したことになる（『中日新聞』昭和57年10月28日）。中国は今後も漢字の簡略化

を進め、将来はほとんどの漢字を十画以内にすることを目指している。

漢字の音を表記する方式としては、1918年に「注音字母」を定めたのをはじめ、1928年には「国語ローマ字」を公布した。そして1958年2月の第1期全国人民代表大会、第5回会議で承認され、実施に移されたのが現行の「漢語拼音方案」、つまり表音ローマ字（拼音字母）である。この方式はローマ字26文字のうちVを除く25文字で共通語の意を表わすものである。（Vは多来語、少数民族語、及び方言の表音にだけ用いられる。）

中国の漢字の将来を考えた場合、平仮名と片仮名があるにも拘らず日本語から漢字を無くすことができないことを考えれば、中国語の全面的な表音文字化が至難の業であることは容易に想像できる。確かに中国の文字改革の最終目標が表音化にあるが、それは遠い将来の目標であり、その目標に到達するまでには、多くの段階が必要である。現在の表音ローマ字は、漢字の代わりを果たす文字としての機能は果たしていない。例えば外国の人名や地名でさえ、比較的 原音に近い音をもつ漢字を充てて表わしている。こうしたことから、表音ローマ字の採用がそのまま漢字の廃止に直結しない。また現在、簡体字の数は2,238字で通常用いられる漢字の1/3に過ぎないし、今後筆画を10画以内に減らすという目標に照らすと簡略化はまだ始まったばかりである。中国の文字改革が、漢字の簡略化、表音ローマ字の普及そして共通語の普及というこれまでの政策の範囲内に 停まるか、それとも故毛沢東主席が指示した通り、漢字の廃止、表音文字の採用にまで発展するかどうかについては必ずしもはっきりした展望がある訳ではない。

2 簡体字について

日本には新字体があり、中国には簡体字と従来の漢字がある。例えば「曆」は簡体字では「历」と、「廠」は「厂」と書くようになった。すると日本人には「歴」を「厂」の如く略字で書く場合もあり、「廠」の簡体字である「厂」と同じ字ではという錯覚に陥り、従来の漢字を見て意味を

とるということができなくなってしまった。その他、日本人には類推が困難な簡体字として币(幣), 叶(葉), 从(從), 灵(靈), 无(無)など数多くある。簡体字とはいわば略字の事だが、日本の略字とは少し異なる。つまり、日本の略字には正字となったもの(學→学, 釋→釈, 畫→昼)とならなかったもの(働→働, 権→権, 第→弟)があるのに対し、中国の略字すなわち簡体字はすべて正字の地位を与えられ、従来の画数の多い漢字は使わないことになったのである。ゆえに簡体字は中国の正式な字なのである。

漢字を簡略化する方法としては、1)形声文字の表意部を取り去って表音部を残したもの(雲→云, 電→电), 2)形声文字の表音部を取り去って表意部を残したもの(雖→虽, 務→务), 3)形声文字のへん又はつくりを簡略化したもの(遠→远, 運→运), 4)同音の別の字(画数の少ないもの)で充当したもの(機→机, 乾→干), 5)会意文字の部分的省略によるもの(掃→扫, 奪→夺), 6)記号的なもので部分的に代替させたもの(辨→办, 鷄→鸡), 7)意味から考えて新しくつくった簡単な会意文字(筆→笔, 竈→灶), 8)草書を加味したもの(東→东, 爲→为), がある。

日本の新字体²⁾は主として筆画の簡略化という方法に拠っており、中国の簡体字のつくり方は以上の8種類の方法に拠っていて、簡略化の基本方法に両言語では食い違いがある。今後、漢字の簡略化に伴い、われわれ日本人にとって中国語の知識なしで漢字の意味を理解することは、ますます困難になっていく。

〔注〕

- 1) 増田純男編『言語戦争』(大修館書店, 1978) 249頁。
- 2) 新字体には大きく分けて3種類ある。1)活字に従来用いられた形をそのまま用いたもの, 2)活字として従来2種以上の形のあった中から1つを採ったもの(冊と册→册, 島と嶋→島), 3)従来活字としては普通に用いられていなかったもの。3)についてはさらに8つの項目に分かれる。(1)点画の方向の変わったもの(半→半, 羽→羽), (2)画の長さの変わったもの(契→契, 急→急), (3)同じ系統の字で、または類似の形で小異の統一されたもの(拔→拔, 拜→拜), (4)一点一画が

増減し、または画が併合したり分離したりしたもの（黒→黑，黄→黃），(5)全体として書き易くなったもの（亞→亜，儉→儉），(6)組立ての変わったもの（默→黙，勳→勳），(7)部分的に省略されたもの（應→応，藝→芸），(8)部分的に別な形に変わったもの（廣→広，轉→転）。

Ⅲ 現代中文図書の定義とその読み方，表記の仕方 について

1 現代中文図書の定義について

『和漢書目録の作り方』の所で、「和書とは、本文が日本語で書かれた図書のことであり、漢書とは、中国人が中国語で書いた図書のことを指す。したがって「和漢書」の意味は、本文が日本語又は中国語で書かれている図書の総称であると考えればよい。」¹⁾と述べられている。この原則に従い本学図書館では、今日まで中文図書はすべて和書と同じで『日本目録規則』に準拠して整理にあたってきた。今回なぜ現代中文図書の定義が必要になったかについては、前章ですでに触れた。

結論を述べると現代中文図書をいかに定義するかについては、様々な考え方があがるが、整理業務の効率化、単純化を第1に考え、出版年の民国元年（1912）を基準とし、以前は漢籍古典、以後は現代中文図書扱いとする。その第1の理由として図書の形態が挙げられる。民国以前の図書は線装本や中装本が多く、以後のは主に洋装本である。第2の理由は現在の漢字のローマ字化の基礎となっているのは「注音字母」で、それが決められたのが1913年（民国2年）である。最初は「記音字母」という名称であったが後に「注音字母」、「注音符号」と改称された。第3の理由は本学図書館所蔵の漢籍目録を見てもと民国以前と以後で分けている目録が多い点²⁾である。

但し民国以後に出た図書でも、清末までの漢籍古典類の覆刻版については、本学に文学部国文学科、及び大学院、国文学専攻修士課程、博士課程

が設置されている関係上、現代中文図書には入れないことにする。（今後「中文図書」とあれば民国元年以後の出版物で、清末までの漢籍古典類の覆刻版を除いた図書を意味する。）

2 書名、著者名の読みとその表記の仕方について

①熊本商科大学図書館が昭和56年7月に全国の私立大学図書館に対しアンケート調査を行なった資料、②国立国会図書館が、昭和51年5月に行なった「ローマ字翻字法に関する全国調査」の資料、及び③昭和56年度に東海地区研究会分科会が名古屋市近辺の私立大学図書館に対し行なった調査資料、の3点をもとに中文図書整理における漢字の読み方、表記の仕方についてまとめ、私個人の意向を述べる。

①熊本商科大学図書館が調査したのは「中国語の図書の表記はどうしていますか」というもので、その回答として、1)表音文字（字母）にしている（例：鲁迅=Lu Xun）5館 9.1%，2)日本語読みにしている（例：鲁迅=Ro Jin）50館 90.9%，3)その他0。

②国立国会図書館の調査報告は、さらに細かく4項目に分かれている。

中国語

館種	回答数	ウェード式 ³⁾	漢語拼音字母	日本語訓読 [*]	日本語音読 ^{**}
国立図書館	1	—	—	1	—
大学図書館	555	12	14	99	430
公共図書館	213	—	1	72	140
専門図書館	27	—	2	5	20
合計	796	12	17	177	590

注 * 例：「關於知識分子的改造」

(かな) チシキ ブンシ ノ カイゾウ ニ カンシテ

** 例：「關於知識分子的改造」

(かな) カン オ チ シキ ブン シ テキ カイ ゾウ

*** 上記2例とも、その分綴法は問わない。

資料。『国立国会図書館月報』208号，13頁。

③東海地区研究会分科会の調査では、「中国語整理について」という質問に対して複数回答であるが、1) 表音文字（字母）にしている 4 館（拼音字母 3 館，ウェード式 1 館），2) 日本語読みにしている 7 館，3) その他 5 館，という結果である。

以上3つの調査結果から日本の図書館，特に大学図書館は，①日本語読み（音読みが圧倒的に多い），②拼音字母，③ウェード式，の順で中文図書を取り扱っていることが判った。

本学図書館所蔵の中文図書については，多少の無理があることは承知だが，書名は日本語による1字1音の棒読みとし，著者名も日本語による1字1音の棒読みとする。そしてその表記方法は本学図書館で従来から用いているヘボン式ローマ字表記を使用する。読み方をそのように統一した理由として，①中国の漢字が次第に簡略化され，日本人には理解しにくくなるという不安材料もあるが，もともと欧米文化を摂取したのは中国よりも日本が先で，西欧語の漢字による意識語は先づ，日本において大量に作られたのである。そして中国はそれをそのまま中国語として借用した訳である。書名における学問上の専門用語の多くはそれである。その他もともと古代中国語にあった語を日本人が西欧の翻訳語を作る際に多少意味を変えて再使用し，それをさらに中国が借用したものなどがあり，日本と中国では共通する漢字が多い，②漢字の読み方にもいろいろな方法が考えられる，③現状の本学図書館員の語学力では，複本チェック及び整理の効率化，単純化などを考えると，拼音字母では無理である，④本学図書館の利用状況から判断すると，現在の所，拼音字母からカード検索する人はほとんどいない。以上の4つの理由により，将来的には拼音字母をも採用した方がよいように思われたが，日本語の1字1音，棒読みのみとした。

②の漢字の読み方についてであるが，日本語による音読み，訓読みといっても次の如く様々な方法が考えられるのである（ローマ字表記はヘボン式）。1) 意識読み（例：一个秋天的晚 *Aru aki no yûgure*），2) 返り読み（例：演唱单弦的心得 *Tangen o enshôsuru kokoroe*），3) 慣用読み

(例：清末 **Shinmatsu**, 母亲 **Hahaoya**), 4) 呉音読みと漢音読み (例：今昔 **Konjaku** と **Kinseki**, 人間 **Ningen** と **Jinkan**, 老若男女 **Rônyaku nanyo** と **Rôjaku danjo**)。仮に漢音に読みを統一した場合でも、漢和辞典を引き、漢音かどうか読みを確認しなければならないし、漢字1字につき読みが何種類かある場合や慣例的に2種以上の読み方が可能な場合なども考えられ、整理業務が繁雑する恐れが十分に考えられる。

漢字の読みを1字1音の棒読みとする際、典拠にするものは『現代中国関係中国語文献総合目録』（アジア経済研究所, 1967—68）の第8巻にある「首字音読順一覧表」である。それに従って読むならば、次の如く機械的に、速く読むことが可能である（ヘボン式ローマ字表記）。1) 一个秋天的晚 **Ichiko shûtenteki ban**, 2) 演唱单弦的心得 **Enshô tangenteki shintoku**, 3) 清末 **Seimatsu**, 母亲 **Boshin**, 4) 今昔 **Konseki**, 人間 **Jinkan**, 老若男女 **Rôjaku danjo**。

書名の読みで、もともと漢字を使用しない言語における固有名詞の漢訳形については敢えて原綴、又はその一般的日本語読みとはせず、1字1音の棒読みという原則に従う。例えば「法兰西」は「**France**」, 「**Furansu**」ではなく「**Horansei**」となり、「马克思」は「**Marx**」, 「**Marukusu**」ではなく「**Bakokushi**」となる。

この音読順一覧表は原則として書名、著者名の区別なくすべて1字1音に統一されている為、図書整理の効率化、単純化を考えた場合これを利用するのが最適と考える。「首字対照索引」には書名、及び著者名（姓のみ）の読み方が音読順、筆画順、拼音順、威妥（ウェード）順で載っている。主として書名の読みについては「書名首字音読順一覧表」に従い、著者名の姓の読みについては「著者名首字音読順一覧表」に従うことにする。

著者名についてだが、中国の図書館では日本人名は中国式に読んでいる為、中国人名の読みを日本読みとしても決して無理なことはない。著者名を日本語の1字1音読みにする利点を述べるならば、表記方法さえ統一しておけば中国人名と朝鮮人名（現時点では明確な朝鮮語の図書整理規定は

出来上がっていない。)は共通する姓が多い為、読みが一致することである。もし各々を原音で、つまり朝鮮人名は、McCune-Reischauer方式と韓国文教部方式⁴⁾を用い、中国人名はウェード式と拼音字母を用いて、「郑(鄭)」という姓を表記してみるならば、McCune-Reischauer方式では「Chǒng」に、韓国文教部方式では「Jeong」に、ウェード式では「Chêng」に、拼音字母では「Zhèng」となる。日本語による1字1音読みとするならば、両人名とも「Tei」のみで表記されるのにそれぞれ異なったローマ字表記となる訳である。また原音主義を採用したとすれば中国人か、朝鮮人かによって同じ姓でも著者記号を変えなければならない。もし著者の国籍が判明しない場合、どちらの表記方法を採用するかという問題も起こりうる。

姓名のうち名の読み方については、どちらを使ってもよい訳だが字数が多い関係上、「書名首字音読順一覧表」に従うことにする。例えば「毛泽东」の「毛」は「著者名首字音読順一覧表」より「Mô」となり、「泽东」は「書名首字音読順一覧表」により「Takutô」とし、「Mô, Takutô」となる。

なお、1912年以降に出版された和書（覆刻版は除く）の中国人名についても、著者記号、及び標目を統一させる為、この一覧表に従うこととする。

ローマ字表記法であるが、この音読順一覧表は訓令式ローマ字表記を使用している為、書き換えが必要となる。

今後、一覧表に載っていない漢字については逐時検討の上、漢字とその読みを付け加えることにする。

〔注〕

- 1) 岩淵泰郎編『和漢書目録のつくり方』（日本図書館協会、1969）23頁。
- 2) 『京都大学人文科学研究所漢籍分類目録』、及び『東京大学東洋文化研究所漢籍分類目録』では、漢籍古典は「四部分類法」を使用しているが辛亥革命（1911年）以後の著作、いわゆる新学はNDCにより別個に分類され記載、排列も異なる取り扱いをしている。『現代中国関係中国語文献総合目録』は、日本で出版された中文図書目録としては最も詳しいものである。民国元年（1912年）以後の刊

行物と限定し、約6,000タイトル収録されている。この目録では簡体字などはいずれ当用漢字で統一して記載されている。ただ、分類については社会科学、人文科学、自然科学、総記の4分類のみで利用価値は少ない。この他、『神戸市外国語大学図書館中文図書目録』、『東洋文庫近代中国研究室中文図書目録』などが挙げられる。

- 3) ウェード式読みは19世紀後半、イギリス人である Francis Thomas Wade が考案したもので、現在でも英語諸国で用いられている。da, ta (拼音字母) と ta, t'a (ウェード式) や ba, pa と pa, p'a の如く中国の拼音字母は有気音と無気音を区別する場合、文字をかえて区別するのに対し、ウェード式は「'」を用いて区別している。
- 4) McCune-Reischauer 方式 (MR方式) はハングルの読み方を英語式に翻字した発音重視の翻字法である。1字1字独立したハングルの翻字は安定しているが、2字3字となると発音が変化する為、幾通りにも翻字される。一方、韓国文教部方式はハングル字母の1字1字を翻字したものである。MR方式とは異なり、発音の変化に左右されない為、安定した翻字法である。

Ⅳ 本学図書館における現代中文図書整理について

今まで本学図書館では和漢書整理に『日本目録規則』、『日本十進分類法』及び『日本著者記号表』を使用してきた関係上、それに沿って必要と思われる所のみを補足説明する。

目録カードは和書においては原稿をとり、業者に発注する印刷体のカードを使用している。カード形式は記述ユニット・カードである。

中文図書についても、和書に従い原則として標題紙の記載どおりに原稿をとり、業者に発注する方式を採用するが香港、中華民国(台湾)と中国では字体が異なることが多い為、活字の問題もあり印刷と手書きを併用する。

A 『日本目録規則 新版 予備版』 (「新NCR」) より

- 2・1 記述
- 2・1・4 記述の方法
- 2・1・4・2 (文字)

「漢字は原則として、標題紙等に使用されている字体を記載するが、当

用漢字等による字体を使用してもよい。」とあるが 中文図書においては簡体字と異体字，繁体字がある為，標題紙等に使用されている字体を忠実に記述する。もし標題紙の文字が活字（明朝体）でない場合，目録カードは活字（明朝体）に改めるか，無ければ手書き（楷書）とする。

2・4 出版に関する事項

拼音字母と漢字の2種類の出版事項が記載されている場合は，漢字の方を記述する。

2・4・1 出版地

2・4・1・3 （出版地不明）

現在の中国と中華民国（台湾）については，各々に出版年鑑（『中国出版年鑑』，『中華民国出版年鑑』）が出ている為，出版地については，図書に表示されていないなくても，出版者から推定することが可能である。その場合，出版地を角がっこに入れて記載する。

2・4・3 出版年

2・4・3・1 （出版年）

中国は1949年（民国38）までは「中華民国」（略して「民国」）という年号を用いていたが，それ以後は西歴紀年に統一された。中華民国（台湾）及び香港においては「民国」と西歴紀年を併用している。従って出版年を明確にさせる為，「民国」のみの年号についてはそのまま記載し，その後西歴紀年を付記する。

2・5 形態に関する事項

2・5・3 大きさ

整理上問題とはならない所だが，中国では図書館によって「大きさ」を表示しない館と表示しても「cm」とはせず，「¹⁾开」と表示する館とがある。今日の中国出版物の奥付には必ずこの表示がしてある。

2・7 注記に関する事項

2・7・3 書名と著者に関する注記

2・7・3・1 （書名）

標題紙に漢字と拼音字母の2種類の書名がある場合、漢字の方を書名として記述する訳だが、拼音字母については、必要とあれば注記する。

3・3 標目の形

3・3・2 著者標目

3・3・2・1 人名

中国人は本名の他に字（呼び名）を持つ人が多く、さらに号やペンネーム、時には変名を用いる人がいる。次の例は最初が本名で次の（ ）内が字と号、又はペンネームである。孫文（逸山，中山），郭开貞（沫若，鼎堂），舒庆春（舍予，老舍）。ある人は本名を，ある人は字を，ある人は号を通称として用いている。また日本で出版された人名辞典においても人名の取り扱いが異なることがある。それゆえに本学図書館では人名を統一する意味で，Library of Congress の『National Union Catalog』（LC Catalog）の標目形の取り扱いに従い，他から必要とあれば参照カードを入れることとする。本学図書館には1977年まで所蔵しており，現代中国人名については他の辞典より最も網羅性が高いと判断した為である。但し日本語の1字1音，棒読みとしへボン式ローマ字表記を用いる。また『現代中国関係中国語文献総合目録』第7巻の「著者名索引」も標目形の取り扱いが主として，LC Catalog と同じ為，参考となる。

「改姓改名した著者が，新旧の姓名で著作をしている場合は，それぞれの図書に表示されている姓名を標目とする。（参照：相互に）」とあるが，中文図書においては LC Catalog の標目形に従い，他から参照カードを入れる。例えば蒋介石氏の夫人，宋美齡女史は日本の人名辞典ではすべて「宋美齡」で見出しは載っている訳だが，LC Catalog では「Chiang, Mei-ling (Sung)」，「蔣美齡(宋)」の如く結婚後の姓で記述してある。この場合，本学図書館では LC Catalog の標目形に従い「蔣美齡＝Shô, Birei」（弧括内の旧姓は記述しない。）で標目を採り，必ず旧姓「宋美齡＝Sô, Birei」から参照カードを入れることとする。というのは中国の既婚婦人には，姓が2つあり，自分の生家の姓と婚家の姓である。宋美齡女史は，

正しく言うと「蔣宋美齡」なのである。しかし、通称としては結婚後も生家の姓名をそのまま用いている。生まれた子供は「蔣」の姓を名のる。

中国人，特に漢民族の名については1字名，2字名，3字名がある訳だが最も普遍的なものは2字名である。兄弟，姉妹については，名において2字のうち1字が共通して用いられるのが普通である。宋美齡女史の姉妹は宋庆齡，宋靄齡の如く「齡」を共有しているし，魯迅の本名は周树人で，その次弟は周作人，末弟は周建人の如く「人」を共有している。

3・4 標目指示

本学図書館においては件名標目は記載していないし，分類標目についても標目指示の位置には記載せず『日本目録規則1965年版』に従っている。

3・4・3 標目指示における標目の表わし方

本学図書館では漢字の読みはヘボン式ローマ字で表記している関係上，中文図書についてもそれに従い日本語による1字1音，棒読みのヘボン式ローマ字表記とする。

3・4・3・2 著者標目

3・4・3・2・1 (人名)

姓，名の順で記載し，両者の間をコンマ(,)で区切る訳だが，例えば「魯迅」の如く2字からなるペンネームは標目形がLC Catalogでは，本名「周树人=Shû, Jujin」となる為，1語の形「Rojin」と2語の形「Ro, Jin」から必要とあれば，参照カードを入れる。

中文図書では姓と名をすべて等間隔で書くことになっている為，印刷上では姓名の見分けができない。それに中国人，特に漢民族の姓には1字の姓(約90%)もあれば2字の姓(約10%)もあるので取り扱いに注意を要する。3字の姓²⁾はない。姓の数は全部で408とされている。特に2字姓のものが誤って1字姓として扱われ，姓の第2字目が個人名の第1字として処されるようなことは無くしたい。姓名の区別で紛らわしい姓に「欧」と「欧阳」，「司」と「司马」，「司徒」などがある。通常「欧阳」，「司马」，「司徒」と続けば2字姓と思って間違いない。また2字姓の人は，

おおむね1字名であって2字名、3字名は少ない。

「毛泽东」を例にとれば、**LC Catalog** では「**Mao, Tsê-tung**」の如く、名の2字間にハイフン（-）が入っているが日本語表記では「新NCR」に従い、「**Mô, Takutô**」の如くハイフンなしで記載する点、注意しなければならない。

漢字を使用しない外国語からの翻訳書については、著者表示は原則として³⁾ 標題紙通りに記載するが、標目においてはその人の国籍の言語で記載する。但しローマ字を使用しない言語については、本学図書館が使用している翻字法に従い、ローマ字形を載せる。

3・4・3・2・2 (人名の読み)

中国人の姓名の読みについては、『現代中国関係中国語文献総合目録』の第8巻にある「首字対照索引」の「著者名首字音読順一覧表」に従う。「新NCR」に「人名のみに使用される漢字の読みはそれに従う。」とあるが、この一覧表に拠る為、「叶(葉)」は「Shô」ではなく、「Yô」, 「沉(沈)」は「Shin」ではなく、「Chin」と読む。必要とあれば参照カードを入れる。

4 排列

本学図書館には、事務用として書架目録、学生用として分類目録、書名目録、著者名目録がある。中文図書は書名目録を除いて和書と混排する為、和書の基準に従う。排列する際、「新NCR」を参考にする。

書名目録については、和書の書名目録の最後に中文だけのカード・ケースを1つ設け、ABC順に排列させる。その理由は、別置にすることにより、民国以後に出版された中文図書の複本チェック、所在調査、並びに図書の冊数算出が容易になると判断した為である。

書名における複合漢字の取り扱いだが、多くは名詞形だから出来るだけ分けて書かねば読みにくい。漢字の特徴として2字が語の単位であることが多く、その積み重なったものは先づ問題なく分けて書き、排列する。

B 『日本十進分類法 第7版』（「NDC」）より

中文図書を分類する際、本学図書館の所蔵状況、並びに利用等の面から中国、又は中華民国（台湾）で使用されている分類表⁴⁾を用いないと分類できない場合が起こりうる。今後、問題点が生じた時点で検討して行きたい。分類する上で参考となるものは、日本の出版物として、『東京大学東洋文化研究所漢籍分類目録』と『京都大学人文科学研究所漢籍分類目録』（共に「NDC」）、アメリカの出版物として、LC Catalog（「DC」）が、中国の出版物では『中国書籍总目録（全国总书目）』⁵⁾（「中国人民大学图书馆分类法」）が挙げられる。また中国で出版された図書の奥付には最近、日本図書コードに似た出版記録⁶⁾が印刷されるようになり、分類上でも参考となる。

かつて本学図書館で問題となった所は「量詞」で、「论现代汉语中的量词」は中国語に関する知識が少しでもある者なら中国語文法の 825.2 へ分類するはずなのに、609.5 の産業の度量衡（計量法）へ分類してあった。

C 『日本著者記号表』より

1 著者記号のとり方

本学図書館では森清氏の『日本著者記号表』に従い、著者記号を採っている。著者記号を受入れ順の数字のみとすれば、これほど簡単に迅速に整理できることはないが、従来からの方法に従う。

中国人名は『現代中国関係中国語文献総合目録』の第8巻にある「著名首字音読順一覧表」より、¹⁾へボン式²⁾ローマ字表記にして、著者記号を採る。漢字以外からの翻訳書については、著者記号を統一する為、和書と同じように著者の国籍の言語（ローマ字を使用しない言語については、翻字法に従い、ローマ字形）に直して採る。

2 外国人名の漢字表記と著者記号について

中国では日本、朝鮮⁷⁾、ベトナム⁸⁾など漢字で表記する（或るいは表記していた）言語以外から人名を写す場合、適当な漢字を充てて音訳するのが一般的である。しかし音訳の基準⁹⁾が明確に定まっている訳ではない為、一定の漢字に定着するまでに何通りかの宛字が行なわれることがある。例えば「Karl Marx」は現在の「马克思」（拼音字母では Mǎkèsī）に落ち着くまで、1902年から21年間に10種の表記が為された。もともと漢字以外の表記を漢字に写しとることは甚だ不便なのである。その理由は4つあり、①漢字は必ずしも1字1音ではない為、音訳字の読み方に不一致を生ずる恐れがある、②漢字の総数は約50,000で共通語における音節の総数は400余であるから、1つの音節に相当数の漢字が配当される、③訳出者の方言音による音訳がある、④音節の総数には限りがあり、あらゆる音がすべて漢字で表記できる訳ではない。

さらに、漢字を使用する中国と中華民国（台湾）との間でも漢字を使用しない外国人名の表記方法¹⁰⁾を、字体は別にしても、異にする例が多く見られる。例えばロシアの作家「Nikolai Vasil'evich Gogol'」は中国の『辞海』（中華書局、1979）では「果戈理（拼音字母では Guōgēlǐ）」となり、中華民国（台湾）の『國語辭典』（台湾商務印書館、民国60）では「果哥爾（注音字母ではㄍㄨㄛˊㄍㄛˊㄌㄧˊ）」となる。この為、漢字を日本語読みから著者記号を採った場合、同一人名でも著名記号が変わってしまう恐れが十分に考えられるのである。

〔注〕

1) 開本について。

開本規格	8開	大16開	16開	18開	25開	大32開	32開	大64開
横 (cm)	26	20	19	17.5	15	14	13	10
縦 (cm)	38	28.5	26	24.5	20.5	20	18.5	13.8

- 2) 漢民族以外の少数民族の人名には、漢字で3字以上となる姓名がある。愛新觉罗 溥仪(満州族), 伊敏诺夫·哈密提(ウイグル族), 尼科来·瓦西里维奇·孜緬科(ロシア族), 帕巴拉·格烈朗杰(チベット族)の如くである。これらは民族語の音を漢字で表記したからである。
- 3) 外国人名の著者表示は普通, 姓だけ使う例が多いが必要に応じ, 例えば「John Henry Smith」を「约翰·亨利·史密斯(拼音字母では Yuēhàn Hēnglì Shīmìsī)」と全訳したり, 「Bernard Shaw」を「肖伯纳(Xiāo Bónà)」としたり, 「Maksim Gor' kii」は「高尔基(Gāo ěrjī)」の如く姓だけを中国人に似せて3字にまとめたものなど様々な形がある。
- 4) 現在, 中国の図書館で使用している分類表と「NDC」を載せておく。

資料: 白国应編『图书分类学』(书目文献出版社, 1981) 154—155頁。

序列	分类法		人大法	中小型表	科图法	武大法	大型法	中图法	NDC
	类号	类名	17 大类	21 大类	25 大类	26 大类	21 大类	22 大类	
1	1	马克思列宁主义, 毛泽东著作	A 马克思列宁主义	00 马克思列宁主义, 毛泽东思想	A 马克思列宁主义, 毛泽东思想	A 马克思列宁主义, 毛泽东著作	A 马克思列宁主义, 毛泽东著作	0 总记	
2	2	哲学, 辩证唯物主义与历史唯物主义 附: 宗教无神论	B 哲学	10 哲学	B 哲学 附: 无神论, 宗教	B 哲学	B 哲学	1 哲学	
3	3	社会科学政治	C 社会科学(总论)	20 社会科学(总论)	C 社会科学总论	C 社会科学总论	C 社会科学总论	2 历史	
4	4	经济, 政治经济学与 经济政策	D 历史	21 历史, 历史学	D 经济, 政治经济学	D 历史, 历史科学	D 政治, 法律	3 社会科学	
5	5	国防, 军事	E 经济	27 经济, 经济学	E 政治, 社会生活	E 经济, 经济科学	E 军事	4 自然科学	
6	6	国家与法律	F 政治 社会生活	31 政治 社会生活	F 国家与法律	F 共产主义运动与组织, 劳动人民的社会政治组织	F 经济	5 工学	
7	7	文化教育	G 法律	34 法律 法学	G 国防 军事	G 国家与法律	G 文科 化学 教育 体育	6 产业	
8	8	艺术	H 军事	36 军事 军事学	H 文化, 教育, 体育	H 军事 军事科学	H 语言文字	7 艺术	

序列	分类法	人大法	中小型表	科图法	武大法	大型法	中图法	NDC
		17 大类	21 大类	25 大类	26 大类	21 大类	22 大类	
9	9	语言文字学	I 文教 化育	37 文化, 科学, 教育, 体育	I 语 文 言 字	J 文 教 化 育	I 文 学	8 语 言 学
10	10	文 学	J 语 文 言 字	41 语 言 文 字 学	J 文 学	K 语 文 言 字 学	J 艺 术	9 文 学
11	11	历 史 革 命 史	K 文 学	42 文 学	K 艺 术	L 文 学	K 历 史 地 理	
12	12	地 理 经 济 地 理	L 艺 术	48 艺 术	L 历 史 革 命 史	M 艺 术	N 自 然 科 学 总 论	
13	13	自 然 科 学	M 宗 教 无 神 论	49 无 神 论 宗 教 学	M 自 然 科 学 总 论	N 自 然 科 学 总 论	O 数 理 科 学 与 化 学	
14	14	医 药 卫 生	N 自 然 科 学 总 论	50 自 然 科 学 (总 论)	N 数 学	O 数 理 科 学 与 化 学	P 天 文 学 地 球 科 学	
15	15	工 程 技 术	P 数 理 科 学 和 化 学	51 数 学	Q/Z 力 学	P 地 球 科 学	Q 生 物 科 学	
16	16	农 蓄 水 艺 牧 产	Q 地 理 科 学	52 力 学	O 物 理 学 及 其 应 用	Q 生 物 科 学	R 医 药 卫 生	
17	17	综 合 参 考	R 生 物 科 学	53 物 理 学	P 化 学 与 化 工	R 医 药 科 学	S 农 业 科 学	
18			S 医 药 卫 生	54 化 学	P 晶 体 学	S 农 业 科 学	T 工 业 技 术	
19			T 农 业 技 术	55 天 文 学	Q 天 文 学	X/T 工 业 技 术	U 交 通 运 输	
20			U/Y 工 业 技 术	56 地 质 地 理 科 学	Q 气 象 学	Y 交 通 运 输	V 航 空 航 天	
21			Z 综 合 性 图 书	58 生 物 科 学	R 地 质 地 理 科 学	Z 综 合 性 图 书	X 环 境 科 学	
22				61 医 药 卫 生	S 生 物 学		Z 综 合 性 图 书	
23				65 农 业 科 学	T 医 药 卫 生			
24				71 技 术 科 学	U 农 业 科 学			
25				90 综 合 性 图 书	V 工 业 工 程			
26					Z 综 合 性 图 书			

注。「人大法」は「中国人民大学图书馆图书分类法」,「中小型表」は「中小型图书馆图书分类表」,「科图法」は「中国科学院图书馆图书分类法」,「武大法」は「武汉大学图书分类法」,「大型法」は「大型图书馆图书分类法」,「中图法」は「中国图书馆图书分类法」のことである。

- 5) それには分類、書名、著者名その他、定価、出版者名、初版の年月が記録されており、最後には書名索引がある。分類のみならず、目録の上でも役立つものである。
- 6) 最近の奥付には①書名②著者、編輯者、翻訳者の姓名③出版者、印刷者、及び発行者の名称④出版年月、版次、印次、印数⑤統一書号（統一図書ナンバー）、定価の順で印刷されるようになった。
- ⑥については、「 $\frac{\text{統一書号：10019} \cdot \text{1886}}{\text{定価：1.06元}}$ 」の如く奥付に記録が載っている。統一書号は、1) 図書の分類（「中国人民大学图书馆图书分类法」に従っており、10は文学のこと）、2) 出版者（019は人民文学出版社）、3) 図書の種類（人民文学出版社で出版された第1886種類目の図書）、4) 定価（1.06元）の順に数字で記録されている。なお、出版者については、『中国出版年鉴』に①出版者の名称、②出版者番号、③住所の順で詳細に記載されている。
- 7) 中国語の影響が最も顕著に認められるのは語彙の面である。朝鮮語の語彙の半ばを遥かに多く占めるのは漢語である。朝鮮語中の漢語にはおよそ3種類があり、①古典的な漢語、②中国語俗語からの借用語、③日本製漢語、である。
- 8) 前漢の頃から10世紀に渡る中国への隷属以来、永い且つ、深い中国との交渉はこの国を強い漢文化の影響下に置き、ベトナム語に大きな中国語の影響をもたらしたのである。今日、ほとんどローマ字一色に塗り潰された感はあるが、古くはこの国の文字は漢字であり、記録は漢文の形において為されていた。ベトナム語の構造は中国語と似て、声調を有し、孤立語的性格が著しい。語彙の約5割が漢語からの借用である。漢字を離れても漢語に混乱が起らないのは遥かに多様な音節の形が存在するからである。
- 9) 現在の所、具体化には至っていないが、縦・横に子音、母音を配置し、それぞれに漢字を割り振り、訳名統一の為の原則と方法を明らかにした「漢字訳音表」があるので次ページに載せておく。この表の特徴は筆画の少ない常用漢字を選びつつ、しかも使用頻度の高いものや、多音多義のものを極力避けている点である。
- 10) 漢字使用国以外の外国人名を漢字から調べるには、竹之内安巳氏の『中国対照世界地名人名辞典』（国書刊行会、1978）が参考となる。

常用外文

1. 英汉译音表 (修订草案)

韦氏音标	国际音标	韦氏音标								
		b	p	d	t	g	k	v	f	
		布	普	德	特	格	克	弗(夫)	弗(夫)	
ä, a, ä, ü,	ɑ:, æ, ʌ	阿	巴(芭)	帕	达	塔	加	卡	瓦(娃)	法
i, y	ai	艾	拜	派	代(戴)	泰	盖	凯	瓦伊	法伊
ā, ā, ē, â	ei, e, g	埃	贝	佩	代(戴)	泰	盖	凯	维	费
ûr, êr, ë, â	ə:, ə	厄	伯	珀	德	特	格	克	弗	弗
ē, ē, i, y	i:, i	伊	比	皮	迪	蒂	吉	基	维	菲
oo, oo	u:, u	乌	布	普	杜	图	古	库	武	富
ô, ô, ô, o, ô	ɔ:, ɔ, o, ou	奥	博	波	多	托	戈	科	沃	福
ou	au	奥	鲍	保	道	陶	高	考	沃	福
û	ju:	尤	比尤	皮尤	迪尤	蒂尤	久	丘	维尤	菲尤
äm, äm, än, än	æm, a:m, æn, a:n	安	班	潘	丹	坦	甘	坎	范	范
in, yn	ain	艾因	拜因	派因	戴因	泰因	盖因	凯因	瓦因	法因
an, am, en, em	ən, əm, en, em	恩	本	彭	登	坦	根	肯	文	芬
in, im	in, im	因	宾	平	丁	廷	金	金	文	芬
oun, on, on, om, om	aun, ɔ:n ɔn, ɔ:m, ɔm,	昂	邦	庞	唐	汤	冈	康	冯	方
oo, oon, an, oom, oom, om	u:n, un, oun, u:m, um, oun	翁	本	蓬	东(栋)	通	贡	孔	冯	丰
ün, um	ʌn, ʌm	昂	邦	庞	邓	滕	冈	孔	文	丰

注： ① (夫) 用于译名词中和词尾； ② (戴) 用于人名词首和词尾； ③ (芭)， (丽) 等用于女姓名字。 ④ m后跟 b, p 按 n 译。

译 音 表

資料。王天恩 等編『出版工作 手冊』 (战士出版社, 1981) 358—361頁。

z	s	sh	j	ch	th	h	m	n	l	r	w	hw	qu	y	ts
z	s	ʃ	dʒ	tʃ	θ	h	m	n	l	r	w	hw	kw	j	ts
兹	斯	什	吉	奇	思	赫	姆	恩	尔	尔	伍			伊	茨
扎	萨	沙	贾	查	撒	哈	(马 玛)	(纳 娜)	拉	拉	瓦		夸	亚	察
扎伊	赛	沙伊	贾伊	蔡	赛	海	迈	奈	莱	赖	怀	怀	夸伊		蔡
泽	塞	谢	杰	切	塞	黑	梅	内	莱	雷	韦	惠	奎	耶	蔡
泽	瑟	舍	哲	彻	瑟	赫	默	纳	勒	勒	沃		夸	耶	策
齐	(西 锡)	希	吉	奇	(西 锡)	希	米	尼	(莉 莉)	(里 丽)	威	惠	奎	伊	齐
朱	苏	舒	朱	丘	苏	胡	穆	努	卢	鲁	伍		库	尤	楚
佐	索	肖	乔	乔	索	霍	莫	诺	洛	罗	沃	霍		约	佐
佐	索	肖	乔	乔	索	豪	毛	瑙	劳	劳	沃		夸	姚	
齐尤	休	休	久	丘	休	休	米尤	纽	柳	留				尤	
赞	桑	香	詹	钱	桑	汉	曼	(南 楠)	兰	兰	万			扬	
扎因	赛因	沙因	贾因	查因	赛因	海因	迈因	奈因	莱因	赖因	瓦因	怀因			蔡因
增	森	申	詹	琴	森	亨	门	(南 楠)	伦	伦	温		昆	延	岑
津	辛	欣	津	钦	辛	欣	明	宁	林	林	温		昆	英	青
藏	桑	肖恩	琼	琼	桑	杭	芒	农	朗	朗	旺		匡	扬	仓
宗	松	雄	琼	琼	松	洪	蒙	农	隆	龙	温		孔	荣	聪
增	森	申	琼	琼	森	亨	芒	(南 楠)	伦	朗	旺		昆	扬	岑

(栋), (楠), (锡) 用于地名词首和词尾; ④ (娃), (玛), (娜) (莉),

2. 俄汉译音表 (修订草案)

辅音	元音		A	E	E, IO	И, Й ИЙ, Ъ	O	У	Ы ЫЙ	Э	Ю	Я
	拉丁文转写	元音	A	E	IO YO	I	O	U	YI	E	U YU IU	IA YA
	拉丁文转写	汉字译音	阿	叶, 耶	约	伊	奥	乌	厄	埃	尤	亚 (娅)
Б	B	勃	巴(芭)	别	标	比	鲍	布	贝	贝	比尤	比亚
В	V	弗(夫)	瓦	维	维奥	维	沃	武	维	维	维尤	维亚
Г	G	格	加	格	格奥	基	戈	古	格	格	丘	
Д	D	德	达	杰	焦	季	多	杜	迪	德	久	佳
ДЖ	DZH, J	吉	贾	杰	召	吉	召	朱		杰	久	贾
Ж	ZH	日	扎	热	若	日	若	茹		热	茹	
З(ДЗ)	Z, DZ	兹	扎	泽	焦	齐	佐	祖	兹	泽	久	齐亚
К	K	克	卡	克	乔	基	科	库	克	凯	丘	
Л	L	勒(尔)	拉	列	廖	利(莉)	洛	卢	雷	莱	柳	利亚
М	M	姆	马(玛)	麦	苗	米	莫	穆	梅	迈	缪	米亚
Н	N	恩	纳(娜)	涅	尼奥	尼	诺	努	内(纳)	奈	纽	尼亚
П	P	普	帕	佩	皮奥	皮	波	普	佩	派	皮尤	皮亚
Р	R	尔	拉	列	廖	里(丽)	罗	鲁	雷	莱	柳	里亚
С	S	斯	萨	谢	肖	西(锡)	索	苏	瑟	瑟	休(秀)	夏(霞)
Т	T	特	塔	捷	焦	季	托	图	蒂	泰	丘	佳
Ф	F	弗	法	费	费奥	菲	福	富	菲	费	菲尤	菲亚
Х	KH	赫	哈	赫	晓	希	霍	胡	赫	赫	休	
Ц	TS	茨	查	采	齐奥	齐	佐	楚	齐	采	秋	
Ч	CH(英) TCH(法)	奇	恰	切	乔	奇	乔	丘		切	丘	
Ш	SH(英) CH(法)	什	沙(莎)	舍	绍	希	绍	舒		舍	舒	
Щ	SHCH	希	夏	谢	肖	希	肖	休			休	

注：① (夫), (尔), (耶) 用于译名词中和词尾；② (娃), (丽), (莉), (芭), (楠), (锡), (纳) 用于地名词首和词尾, (姜) 用于地名词尾。

АЙ АИ	ЭЙ	АО АУ	АН АНЬ	ЕН ЕНЬ	ИН ИНЬ	ОН ОНЬ	УН УНЬ	ЭН ЭНЬ	ЯН ЯНЬ	УА ОА	УЙ
AI	EI	AO AU	AN	EN	IN	ON	UN	EN	IAN YAN	UA OA	UI
艾	埃	奥	安	延	英	昂	翁	恩	扬	瓦 (娃)	威
巴伊	贝	鲍	班	宾	宾	邦	邦	本	卞		
瓦伊	威	沃	凡	文	文	旺	冯	文	维扬		威
盖	盖	高	甘	根	金	冈	贡	根	格扬	瓜	圭
戴	戴	道	丹	坚	金	顿	顿	登	江(姜)		杜伊
贾伊	杰伊	召	江(姜)	真	真	忠	忠	真	江(姜)		朱伊
扎伊	热伊	饶	让	任	任	容	容	任	让		瑞
扎伊	泽伊	佐	赞	津	津	宗	宗	增	江(姜)		祖伊
凯	凯	考	坎	肯	金	康	孔	肯	基扬	夸	奎
莱	莱	劳	兰	连	林(琳)	隆	伦	兰	梁		卢伊
麦	麦	茂	曼	缅	明	蒙	蒙	门	缅		穆伊
奈	奈	瑙	南(楠)	年	宁	农	农	嫩	尼扬		努伊
派	佩	泡	潘	片	平	庞	蓬	彭	皮扬		普伊
莱	莱	劳	兰	连	林(琳)	隆	伦	连	梁		鲁伊
赛	赛	萨乌	桑	先	辛	松	松	森	相		绥
泰	泰	陶	坦	坚	京	顿	童	滕	强		图伊
法伊	费	法乌	凡	芬	芬	方	丰	芬			富伊
海	海	豪	汉	亨	欣	杭	洪	亨		华	惠
采	采	曹	仓	增	增	宗	宗	岑	蓄		崔
恰伊	切伊	乔	昌	钦	钦	琼	琼	琴			崔
沙伊	舍伊	绍	尚	申	申	顺	顺	申			舒伊
夏伊	谢伊	肖	向	辛	辛	雄	雄				休伊

(娅), (秀), (霞), (娜), (玛), (莎), (琳) 等用于女性名字; ③ (栋),

V お わ り に

今日、朝鮮ではハングル文字を用い、ベトナムではローマ字を用いている。この2つの国は昔、共に漢字を用いていた兄弟国である。

遠い将来、中国は漢字を全廃し、拼音字母あるいは別の表音文字を使用するかもしれない。仮にそのようになったと仮定した場合、日本語式の読み方は可能だろうか。全く非現実的な事であるが、私は、書名は漢字音のある字については日本に漢字が存在する限り、図書の内容を読むことによって、日本語読みによるローマ字表記は可能であると思う。しかし漢字から作られたのではない固有の言葉については日本語式に読むことは難しいと思うし、著者名においても表音文字であるが為に漢字にすると同音異字となる場合が多分に考えられ、その図書、又は参考図書に漢字形が表示されてない限り日本語式の読みにはすることは困難だと思う。

しかしながら、昔は漢字を使っていたが現在はハングル文字を用いている朝鮮語を例に挙げると、「한국의 정치」は「Kankoku no seiji (韓国の政治)」の如く朝鮮語の助詞を日本語の助詞に置き換えたり、「우리말 큰사전」は「Kokugo daijiten (国語大辞典)」の如く日本の漢字を充てたり、著者名においては漢字形の見当らないものは暫定的にローマ字翻字形を載せ、漢字形が判明した時点で訂正するという方法を採用すれば、日本語式読みをする際に起こる問題点はかなり減るように思われる。

去年の8月に1,000冊以上の未整理中文図書を早く整理し、軌道に乗せる為、整理規定の原案作成を開始した訳だが、以上のような結論に達した。今後、様々な問題が生ずると思われるがその都度検討し、本学図書館独自の規定を作っていくつもりである。私は去年の4月より中文図書整理の担当になったばかりで、中国語の勉強の方は始めてまだ1年半余りである。全くの未熟者である。関係各位が本原案を検討され、本学図書館に御意見を寄せられることを切に願うものである。

中文図書については本学図書館で検討を重ね、最終的結論を出した上で

整理に取り掛かりたい。

今後、これに続き「朝鮮語図書整理について」の原案作成に取り掛かる予定である。

なお、本稿で使った「朝鮮」という用語は論を進める上での便宜的なものであることをお断わりしておく。

Ⅵ 参考文献

- 三根谷 徹 「ヴェトナム語における中国語および漢字の影響」『言語生活』129号, 52—55頁。
- 島村 修治 『外国人の姓名』（帝国地方行政学会, 1971）
- 高名凱, 劉正埏
『現代漢語外来詞研究』（文字改革出版社, 1958）
- 興水 優 「現代中国語の音訳漢字の用法」『言語生活』289号, 32—38頁。
- 霞山会 編 『現代中国人名辞典』1982年版（霞山会, 1982）
- 近藤 春雄 『中国学芸大事典』（大修館書店, 1978）
- 藤堂 明保 『中国語概論』3版（大修館書店, 1981）
- 望月八十吉 『中国語と日本語』（中国語研究学習双書）,（光生館, 1974）
- 鐘ヶ江信光 『中国語のすすめ』（講談社現代新書）,（講談社, 1964）
- 河野 六郎 「中国語の朝鮮語に及ぼした影響」『言語生活』129号, 48—51頁。
- 武部 良明 『日本語の表記』（角川小辞典）,（角川書店, 1979）